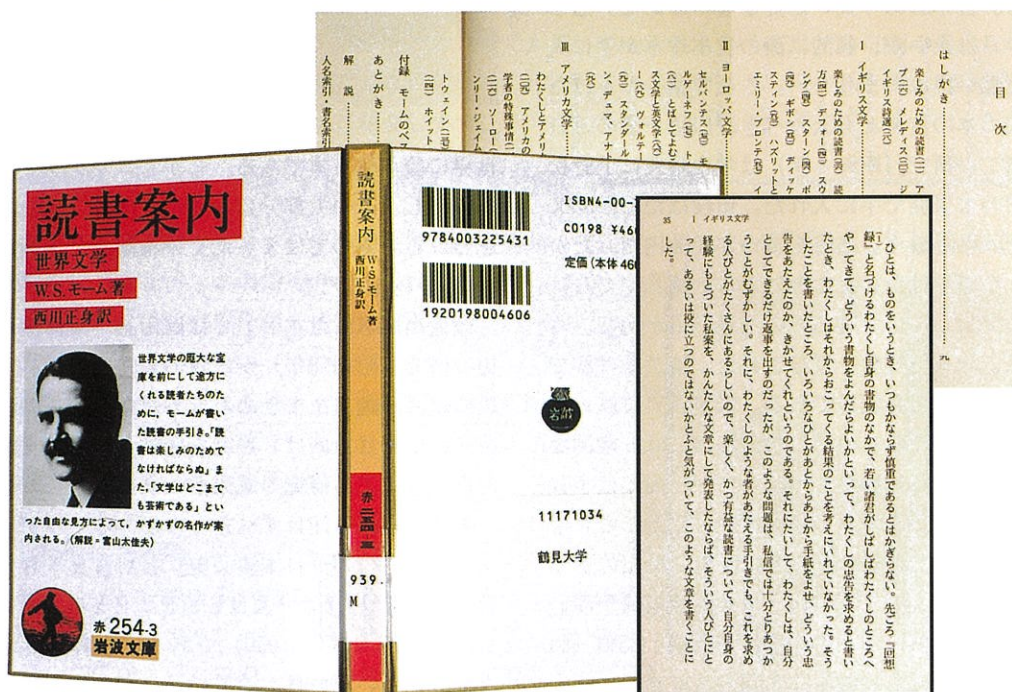




あなたと本

文学部講師 古平 ユキ



難解な現代文学や膨大な世界文学を前にして私たちは途方にくれるが、モームの作品は読みやすく面白い。そのモームが楽しみのための読書を私たちに勧めている。楽しくなければ、読者には価値がないというわけである。

モームの紹介する作品には、スウィフトの『ガリヴァー旅行記』、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』、セルバンテスの『ドン・キホーテ』、スタンダールの『赤と黒』、トルストイの『戦争と平和』、更にメルヴィルの『モービー・ディック』、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィン』など、学生時代に胸を熱くした作

品もあるが、それ以外にも、デフォーの『モル・フランダーズ』、スターンの『トリストラム・シャンディー』、バトラーの『万人の道』などが挙げられている。

。いずれの作品についても言えることは、そこに描きだされている矛盾に満ち、悶え苦しむ人間像が、人間を矛盾の存在と見るシニカルなモームの人間観と一致していることである。

「あなたにとっては、あなた自身の考えこそ価値を持つのである」から、自分に合う楽しい本を見つけることができれば何よりである。ちなみに原題は“Books and You”である。

漆の本の話

文学部文化財学科 中里 壽克

漆の世界は同じ工芸でも陶磁器などの場合と異なって関係する書籍はそう多くない。本学に勤務する前の職場である東京国立文化財研究所には30数年お世話になったが、その間ほぼ毎週行なわれる神保町の古書会館に欠かさず出かけて漆の本探しをやって来た。本当は学生時代から通っていたから神田通いは40年近くになるだろう。古本のあの臭いが好きなのである。通った年月は永いが、劇的に漆の貴本珍本が手に入った思い出はあまりない。ここで第一にあげたい漆の本の古典とも云うべき沢口悟一著の『日本漆工の研究』(昭和8年)は学生時代に上野松坂屋の古書展で手に入れた。値段はたしか3000円だったと思う。当時小遣いが3000円だったから、全額をはたいたことになる。嬉しくてしばらく開封しないで眺めていた思い出がある。著者はこの本で院賞を授与された。漆芸家は誰でも持っている必読書である。岩波新書に収められている『うるしの話』(松田権六)は一般的な本としてこれに勝るものはないが、内容は半分が自慢話だから読んで面白くない。しかしこれで漆がわかったと思われるのは困る。松田の本では『時代椀大観』(昭和14年)が断然価値が高い。

吉野富雄編の『時代蒔絵髹漆集成』25輯(昭和12年)も名著である。大版のコロタイプ印刷で各時代の名品が315枚に収まる。吉野には別に、没後夫人が編集した論文集『日本漆工史私稿』(昭和45年)があり2冊合わせると漆芸史家として有名であった同氏の業績が見えてくる。

以上『日本漆工の研究』、『時代椀大観』、『時代蒔絵髹漆集成』の3冊を三大漆の本の古典としてあげたいと思う。これらの内、前二者は昭和41年、昭和48年に復刻されたが、それでも現在はなかなか入手出来なくなって来ているのは残念だ。

戦前には又『花のませ籬』8冊(大正8年)が出版された。これは武井男爵家蔵の印籠を収録したもので、印籠の本としては今でも最大で



世界に誇り得る本である。しかしコレクションは四散し、その大部分はおそらく国外に出たと思われる。本の方はまったくの稀覯本で市価は100万を越えるだろう。

最近出版された本としては岡田譲『東洋漆芸史の研究』(昭和53年)が出色のものである。同氏の代表的論文をまとめたものだが、東洋の漆芸品に広く目を向け、豊富な経験と克明な文献的裏付けによる研究の成果がまつている。

英文の本にも注目すべきものがある。ラゲール女史(ドイツ)の『日本漆芸史』とMARTHA BOYER『JAPANESE EXPORT LACQUERS』(1959)である。前者は日本人も書いていない日本漆芸の通史であり、後者は日本輸出漆器を述べたもので、外国人の書いた漆の本として共に漆芸研究者の座右の書として恥じない。

漆に関する本はもちろん他にも掲げるべき名著が幾つもあるが割愛せざるを得ない。

最後に私事で恐縮であるが、自分の本を引っぱり出すことをお許し頂きたい。平成2年に出版した『中尊寺金色堂と平安時代漆芸技法の研究』である。この本は幸いにも平成3年度の「国華賞」を頂くことが出来た。何も自慢するものを持っていないが、この本を上梓出来たことに誇りを持っている。

文化の散歩道

日本各地の足跡をたどる

もうすぐ夏休みになりますが、皆さんはどのように過ごされるでしょう。中にはもう予定を立てている方もあるのではないのでしょうか。家族や友人と、あるいは一人で旅行にでかけるという方も多いと思います。さて、旅行先では海や山の自然に触れたり、名所・旧跡などの観光をしたりと、様々な楽しみ方がありますが、暑い季節、一日中外にいるのも大変です。そんな時は、少し目先を変えて周辺の美術館・博物館を探して入ってみてはいかがでしょうか。冷房の効いた建物の中でじっくりと時間をかけて、その土地の歴史や文化の流れを追って見ませんか？

ということで、今回は全国各地の美術館・博物館の中からお勧めのものをいくつか選んで特集してみました。旅行には行きたいけれどどこへ行くか迷っている、という方はぜひ計画の参考になさってみて下さい。また反対に「こんなに暑いのに出かけるのはちょっと・・・」という出不精の貴方にも楽しめるミュージアムもご紹介します。

インターネット美術館・博物館

コンピュータのディスプレイで鑑賞できる美術品、文化財。インターネット上にある美術館や博物館を見てみよう。ここで紹介するのはごく一部。一部も一部、たった4つ。ネットの海にはもっともっとたくさんの美術館・博物館があるので、みなさんも探してみてください。

文化庁

<http://www.bunka.go.jp/index.html>

メニューの“文化財紹介”をクリックすると、国指定の文化財の代表的なものが見られます。

InterNet 美術館

<http://www.fitweb.or.jp/taiken/office/index3.htm>

北電情報システムサービス株式会社という会社のホームページのコンテンツのひとつです。ゴッホの「ひまわり」など、世界の名画が鑑賞できます。

神奈川ビエンナーレ国際児童画展

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/biennial/index.htm>

1年おきに神奈川県で開催されるカナガワビエンナーレ国際児童画展の大賞作品などを厳選し、紹介しています。

博物館の博物館

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/esthome/matusita/Museum/Museum.html>

大阪大学の大学院生が個人で作っているページです。しかし、とても個人でやっているのが信じられないほど充実したページ。博物館のURL集から、日本の博物館から世界の博物館から、インターネット上の博物館から、とにかく情報量の膨大なこと。しかも子供用のページもちゃんと用意してあるところがすごい。



福岡市立博物館

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-1-1
電 話 092-845-5011
地下鉄1号線西新駅または藤崎駅下車15分

松浦史料博物館

〒859-5152 長崎県平戸市鏡川町12
電 話 0590-2-2236
松浦鉄道たびら平戸口駅バス
平戸ターミナル行き終下車徒歩5分

京都国立博物館

京都市街の東南に位置する博物館。三十三間堂や智積院といった東山の名刹に囲まれ、古都にふさわしい雰囲気醸成している。赤レンガの美しい本館は、明治期西洋建築で、重要文化財となっている。新館では、館有品だけでなく、京都周辺社寺からの寄託品による展示もある。日本の考古遺物・古美術を中心に幅広く収蔵されていて、定期的に展示替えも行うので、何度足を運んでも新しい発見があるに違いない。また、特別展覧会も催されるので、行く前に問い合わせよう。尚、4月～11月の毎週金曜日は本館のライトアップをしており、夜景も楽しめる。
開館時間 9:00～16:30（但し4～11月の毎週金曜日は20:00まで）
休 館 日 月曜日（休日の場合火曜日）・年末年始
観 覧 料 大人 420円・高大生 130円
住 所 京都市東山区茶屋町527
電 話 075-541-1151（代）

加賀市美術館

〒922-0816 加賀市大聖寺東町2-5
電 話 07617-3-2662
北陸本線大聖寺下車徒歩6分

北上市立鬼の館

〒024-0324 北上市和賀町16-131
電 話 0197-73-8488
北上駅西口よりバス「夏湯温泉」行き（5月～10月）鬼の館前下車

北海道開拓の村

明治・大正時代に建築された北海道の建造物を移築復元し、保存している野外博物館。この博物館は、北の自然の厳しさや尊さ、北海道開拓の意義と移住者の生活、その時代の農業・漁業などの産業、北海道の文化のあり方等を体験的に理解してもらうことを目的に開村された（開拓期の歴史を楽しみながら学べる体験学習を実施している）。動く展示として、夏は馬車鉄道、冬は馬そりが走り、四季を通じて村の魅力を高めている。博物館は、豊富な自然と森に囲まれており、北海道ならではの自然の雄大さを満喫できる。また、館内に一歩足を踏み入ると、まるで明治・大正時代にタイムスリップしたかのようである。

開館時間 9:30～16:30（入館は16:00まで）
休 館 日 月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）
観 覧 料 一般610円・大学生450円（夏期料金）
住 所 札幌市厚別区小野幌
電 話 011-898-1000（テレフォンサービス）

浦添市美術館

琉球漆器研究では中心的存在。総体に塗った朱漆、その上に展開させた「堆錦」・「密蛇絵」などの特徴的な技法。朱漆に緑、赤、黄、金箔といった、いかにも南国を思わせる色彩の琉球漆器が約500件展示されている。

開館時間 9:30～17:00
休 館 日 月曜日・年末年始
観 覧 料 150円
住 所 浦添市字仲間1330
電 話 098-879-3219



大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26
電 話 06-223-0055
地下鉄御堂筋線淀橋駅下車徒歩5分

樂美術館

〒602-0923 京都府京都市上京区油小路中立売上ル
電 話 075-414-0304
京都駅から市バス「堀川中立売」下車徒歩3分

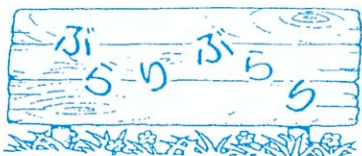
徳川美術館

家康愛用の品々、尾張徳川家に伝わる大名道具を中心に展示している。常設展は、展示品を大名の暮らしの中で使われていたモノとしてとらえ、展示室に茶室などの生活空間を復元し展示している。収蔵品は日本・中国・朝鮮の美術品で、絵画・書蹟・漆芸品・陶磁器・染織・茶道具・刀剣など多岐にわたる。収蔵品の中で有名なものに、王朝文化を伝える国宝「源氏物語絵巻」や、茶の湯陶器の「白天目茶碗」がある。
開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日 月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
観 覧 料 一般 1,200円・高大生 700円
住 所 名古屋市東区徳川町1017
電 話 052-935-6262

新刊あらかると

最近整理された本の中から図書館員がお薦めする本を紹介しています。すべての新刊本は、入口正面の新着図書展示棚に1週間展示されます。

情報科学	・ 電脳のスーパイたち 滝田誠一郎著 (パソコンビジネスの草創期になった男たちの肖像)	007.3/T
	・ 図書館員への招待 塩見昇編著 (司書を目指す若い人達へのメッセージ)	013.1/S
	・ 読んだふり：書評百片 河合史夫著 (朝日新聞に掲載された著者の書評101本)	019.1/K
	・ ウォーキング神奈川 服部一景著 (歩いて見つけた神奈川の新しい魅力)	K/H
宗教	・ 異神 山本ひろ子著 (中世を舞台に綾なす異神たちの活動の軌跡)	160.21/Y
	・ 日本人と地獄 石田瑞鷹著 (日本人の地獄観の集大成)	181/I
歴史	・ 入門者のための考古学教室 山岸良二著 (価値ある情報を分かりやすく紹介)	210.025/Y
	・ 図説イギリス物語 クリストファー・ヒバート著 (先史時代～現代まで数千年の歴史)	233/H
	・ ロンドン発英国鉄道の旅 三澤春彦著 (4年間のロンドン生活での体験旅行)	293.309/M
教育	・ 日本の高校生：国際比較でみる 千石保著 (日米高校生を比較分析)	376.4/S
	・ 江戸のファーストフード 大久保洋子著 (百万都市江戸の食空間を読む)	383.8/O
地学	・ 図説地中海物語 デイヴィッド・アッテンボロー著 (人類と海の壮大な物語)	452.26/A
植物学	・ 植物の生と死 江刺洋司著 (植物にとって寿命とは何か)	471.3/E
医学	・ 病院検査のここが知りたい 奈良信雄著 (検査の「なぜ・なに」を解説)	492.1/N
	・ 健康文化論 滝沢利行著 (21世紀の健康のあり方を探索する)	498/T
工学	・ 日本人の技術はどこから来たか 石井威望著 (技術思想のルーツを解明)	502.1/I
	・ 地球環境キーワード事典 環境庁地球環境部編集 (環境問題の事象毎に解説)	519/C
	・ ロンドンの雑貨屋さん 石毛真理子文 (はじめての旅行者にも豊かな物がみつえられる)	589/I
	・ メニューの読み方 見田盛夫著 (メニューを見ながら料理の奥のフランス文化を紹介)	596.13/M
産業	・ 森を守る文明・支配する文明 安田喜憲著 (自然環境と文明興亡の関係)	650.2/Y
	・ テレビ汚染とアメリカの子供たち デイヴィッド・ウォルシュ著 (どう子供たちを守っていくか)	699.8/W
芸術	・ 佐伯祐三のパリ 朝日見他著 (夭折の画家の生涯と作品風景を徹底ガイド)	720.21/S
	・ ビレッジサイン 西川潔他著 (英国ノーフォーク地方のサインをカラー写真で紹介)	727/N
	・ はじめての手彫りガラス工芸 富澤淑恵著 (手順を追って詳しく紹介)	751.5/M
	・ やさしく楽しい暮らしのちぎり絵 辻井華洲著 (手軽に誰にでも楽しめる)	754.9/T
言語学	・ 楽しい翻訳 尾島恵子著 (翻訳家をめざす人々へのメッセージ)	801.7/O
	・ 中国人から見た不思議な日本語 莫邦富著 (似て非なる2つの言葉の奇妙な関係)	810.4/B
	・ 名文を書くテクニック 西岡光秋著 (文章を書く楽しみを導く)	816/N
	・ とっても英文法 大島保彦著 (些細な疑問の解決こそが飛躍への原動力)	835/O
文学	・ 面白本ベスト100 北上次郎著 (本の世界を一つの視点を定めて分析)	902.83/K
	・ 珍妃の井戸 浅田次郎著 (清朝宮廷ミステリー・ロマン)	913.6/A-49
	・ 小林一茶 童門冬二著 (俳句の軌跡と化政文化を背景に描く苦闘の生涯)	913.6/D-4
	・ 京都花暦 水上勉著 (美しい四季を彩る花の京都のアンソロジー)	913.6/M-47
	・ 血 大原まり子著 (8人の俊英作家が得意のジャンルで挑む吸血鬼アンソロジー)	913.68/C
	・ ヴァージニア・ウルフ リンダ・ゴードン著 (9年に及ぶ資料検証に基づく)	939.9/G
	・ 眠り姫 ダニエル・キイス著 (睡眠障害とグリム童話を融合させた傑作巨編)	A934.0/K-31
	・ フラゴナールの婚約者著 ロジェ・グルニエ著 (苦くておかしい20の短編傑作選)	953/G
	・ ドン・キホーテ讃歌 川成洋他編 (ドン・キホーテ再発見の旅へ)	960.28/S



今回の“ぶらりぶらり”は、東京都大田区の萩中公園を訪ねてみることにしましょう。

場所は、京浜急行空港線の大鳥居駅から徒歩約5分。大田区内の533の公園や緑地、児童公園の中で4番目に広い公園です。面積約6万4千㎡の広く自然豊かな園内は、中央を貫くケヤキ並木によって、東西に二分されています。並木の西側には、芝生の広場・野球場・プールなどがあり、東側には、交通公園やガラクタ公園などがあり、赤ちゃんからお年寄りまで、幅広い年齢層の方々に利用されています。

芝生の広場はゆるやかに盛り上がる丘になっていて、木陰で夏のさわやかな風を受けながらの日光浴には最適でしょう。広場の横には、流れる川があり、夏にはここで水遊びを楽しむ子ども達の姿が数多く見られます。

ガラクタ公園は、使われなくなった乗り物や機械が遊具として置かれているユニークな広場です。蒸気機関車や都電など懐かしい乗り物のほか、消防自動車、ブルドーザー、などにも触れることができます。また、交通公園は、自転車や豆自動車、ゴーカートなどを利用して楽しみながら交通ルールを学べる人気の広場で、いつも親子連れなどでにぎわっています。

そして萩中公園のとおきのお勧めは、設備の充実したプールです。区立なので、料金も大人480円と、とても安く利用することができます。屋外プールのほか、温水プール・ウォータースライダー・流れるプールなどがあり、一年を通じて水泳が楽しめます。

おもしろさいっぱい、の萩中公園。ぶらりぶらりとするのはもちろん、日光浴も良し、読書も良し、おもいっきり遊んでみるのも良いと思います。これからの季節、家族や仲間と一緒にぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(庶務課 蒲田めぐみ)

★★

図書館ワンポイント・アドバイス(8)

“目録について”

自分の探している本が書架にない場合、カウンターの係員に尋ねる場合があります。そのとき必ず、「目録を引きましたか」とか「目録を引いてみてください」などと、逆に聞かれると思います。では、その目録とはどういう役割をもっているのでしょうか。

たとえば、皆さんの家にも多少に関わらず本があると思います。ですが、目録を作ることは普通ありません。それは、

1. 本の量が少ない。
 2. 自分の読みたい本を自分で購入する。全部読まなくとも、著者、書名などを覚えている。
 3. 本を置いておく場所も自分で決めている。
- というような理由で、どんな本がどこにあるかを自分で記憶しているからだと思います。

ところが、図書館では、個人の場合と逆のこ

とがいえます。

1. まず、量が多い。当館でも約50万冊の資料があります。
2. 利用者が直接収集するわけではない。自分の使いたい本を、図書館で探すことになります。
3. 利用者の目に触れるところ以外にも沢山の本がある。書架を見るだけでは不十分。などの理由により、どのような本がどこにあるかを把握するための仕掛けが必要になってきます。その役割を担うのが目録です。

目録を引くことにより、自分の探している本が図書館に有るか無いか、有れば、どこにあるかがわかります。また、特定の著者や主題の本が網羅的に探せます。係員に聞くことは、その1冊の本についてだけのことしかわかりません。自分が求めている情報を幅広く集めるためには目録を使うことが重要です。

図書館を有意義に使うために、目録を引く習慣をつけることをおすすめします。

図書館だより

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
							30	31												

開館時間 平日 9:00～19:00（水曜日は9:30開館）／土曜日 9:00～16:00
 赤字：休館日 □：開館時間短縮日（平日 9:00～17:00／土曜日 9:00～12:30）
 視聴覚室は月～金の10:00～18:30開室（7/22～9/22閉室）

夏休みの貸出について

貸出期間が以下になります（冊数変更なし）

◇歯学部

期間 6月29日(月)～8月24日(月)までに借りた図書の返却日は9月7日(月)
 ＊8月25日(火)からは平常に戻ります。

◇文学部・短大部

期間 7月17日(金)～9月9日(木)までに借りた図書の返却は9月24日(木)
 ＊9月10日(木)からは平常に戻ります。

◇文学部4年生及び教職員

期間 7月1日(木)～8月22日(土)までに借りた図書の返却日は9月24日(木)
 ＊8月24日(月)からは平常に戻ります。

図書館司書・司書補講習生の貸出

冊数：3冊 期間：3日間
 貸出開始日 7月2日(木)
 最終返却日 9月30日(木)

視聴覚サービスのお知らせ

7月22日(木)～9月22日(火)は閉室します。
 9月24日(木)より平常開室します。

近隣の高校生の図書館利用について

近隣の高等学校に在籍する高校生は、夏期休暇中に限り当図書館を利用できます。

期間 8月1日～8月30日
 利用できる範囲

閲覧及び所蔵資料の複写

・（＊貸出はできません）

詳細は図書館メインカウンターまで。

鶴見女子高校の生徒も大学図書館を利用できるようになりました。